

武蔵野市の年次財務報告書 平成24年度版 概要

※金額は四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合があります。

I 武蔵野市の財政状況

財務諸表からみた財政状況（3つの視点）

（1）財務内容は健全で、行政サービスの提供は持続可能か

- ① 市債残高 204 億円は、平成 24 年度の収入のうち一般財源 395 億円の 0.52 年分に相当し、借入金
は健全な水準にあります。⇒【表 2】参照
- ② 正味財産比率（正味財産合計÷資産合計）は、89.6%と高い水準を維持しています。⇒【表 1】参照
- ③ 連結会計の資産は 3,488 億円、負債は 589 億円、正味財産は 2,899 億円となり、借入金や正味財
産は良好な水準にあります。⇒【表 1】参照

（2）市債償還の支払能力はあるか、また今後予想される市有施設の更新・新設に対応できるか

- ① 市債残高は、一般会計では収入のうち一般財源の 0.52 年分、連結会計では 1.05 年分に相当し、
償還能力は非常に高いといえます。また、資産の更新・新設に備えて基金を積み立てており、こ
ののための基金の平成 24 年度末残高は 255 億円です。
⇒【表 2】、【表 3】、II-①貸借対照表（一般会計）参照
- ② 平成 24 年度の資金の動きを見ると、行政サービス収支の黒字 51 億円に対して、資産形成活動収支
は 17 億円の赤字です。差し引き 34 億円を財務活動収支の赤字 35 億円（市債の償還や基金の積立）
に充てています。歳計現金は 30 億円を維持しておりバランスのとれた資源配分といえます。
⇒II-③キャッシュ・フロー計算書（一般会計）参照

（3）効率的で効果的な行政経営が行われているか

- ① 行政コスト計算書の収支差額は黒字を維持しています（平成 24 年度は 23 億円の黒字）。但し、前年
度に比べて黒字が 13 億円減額しました。今後も扶助費の増などにより支出が増え厳しい状況が予想
されます。健全な財政を維持していくため、より一層効率的で効果的な財政運営が必要となります。
⇒II-②行政コスト計算書（一般会計）参照

【表 1】貸借対照表 一般会計と連結会計

一般会計	金額(億円)	構成比
総資産	2,800	100.0%
うち固定資産	2,387	85.3%
総負債	292	10.4%
うち借入金	204	7.3%
正味財産	2,508	89.6%

連結会計	金額(億円)	構成比
総資産	3,488	100.0%
うち固定資産	2,986	85.6%
総負債	589	16.9%
うち借入金	464	13.3%
正味財産	2,899	83.1%

【表 2】収入に対する借入金の比率

(単位:億円)

一般会計	20	21	22	23	24年度
借入金	238	229	234	222	204
収入(一般財源)	392	393	392	400	395
借入金÷収入(%)	0.61	0.58	0.60	0.56	0.52

連結会計	20	21	22	23	24年度
借入金	468	440	450	450	464
収入(一般財源)	437	437	437	446	441
借入金÷収入(%)	1.07	1.01	1.03	1.01	1.05

収入(一般財源)は、一般会計では、市税、地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税及び交通安全対策特別交付金の合計、連結会計ではそれらに水道・下水道使用料を加えたものです。

【表 3】基金現在高

(単位:億円)

一般会計	20	21	22	23	24年度
財政調整基金	62	63	61	61	61
特定目的基金	214	221	234	257	276
うち資産の更新・ 新設に備えた基金	186	197	208	234	255
合計	276	284	295	318	337
連結会計合計	296	306	314	339	357

II-① 貸借対照表（一般会計）

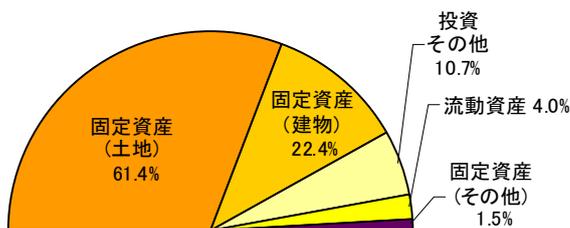
市の保有する資産、負債及びその差額である正味財産を示したものです。資産とその財源を一覧することができます。固定資産は、公有財産台帳及び備品台帳で残高を確認し、個別資産の取得価額を積み上げる方法で集計しました。

- ① 本市は、計画的な整備により都市基盤が早期に完成しました。また、市民サービスの提供と地域の活動の拠点となる公共施設の整備も着実に進めてきました。これら固定資産のほか、現金、基金等を含めた**総資産は2,800億円**になります。
- ② 資産形成は、市税などの自主財源を中心にして、市債なども有効に活用しながら進めてきました。このため、**正味財産比率は89.6%と高い水準**にあります。これは、将来世代に負担を先送りすることなく資産形成を進めてきたことを示します。
- ③ 平成24年度末の**基金残高は337億円**です。このうち資産の更新や新設に備えた基金の残高は255億円になります。また、資産の老朽化度合いを示す**減価償却累計額は、行政財産の建物・構築物が約415億円**です。将来の更新費用を次の世代に先送りしないため、今後も計画的な基金の積み立てが必要です。
- ④ 市債は公共施設の建設などの資金として借り入れ、5年から25年かけて返済します。建設時点の市民だけでなくその施設を利用する次の世代の市民も負担することで、世代間の公平性を保つ方法として位置づけられています。平成24年度末現在の**市債残高は204億円**です。

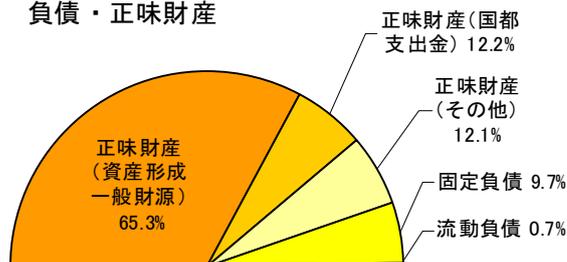
（単位：億円、市民1人あたり：万円）

貸借対照表	H23	H24	前年比増減	市民1人あたり	説明
総資産	2,795	2,800	5	201	現金、土地、建物、備品、基金ほか
総負債	316	292	△24	21	将来世代の負担する負債
正味財産	2,479	2,508	29	180	これまでの世代が負担した正味財産
正味財産比率 (正味財産÷総資産)%	88.7	89.6	0.9ポイント		比率が高い＝将来世代への先送りが少ない

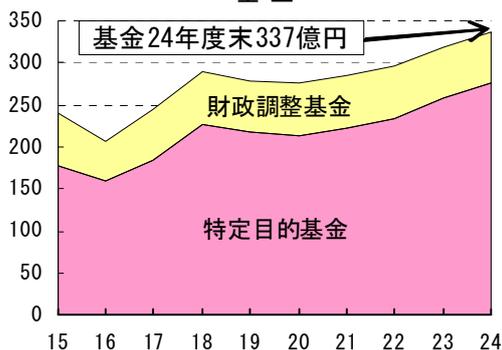
資 産



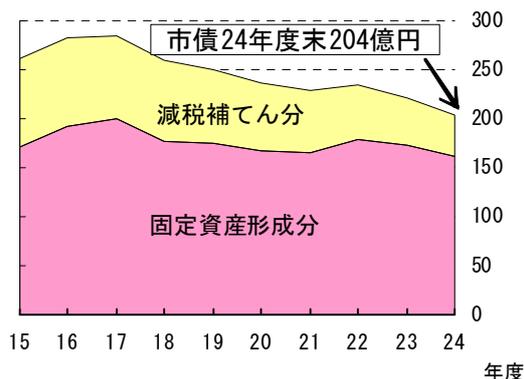
負債・正味財産



基金



市債



II-② 行政コスト計算書（一般会計）

発生主義会計の考え方に基づいて収入と費用とを示したもので、民間企業の損益計算書にあたります。

※ 発生主義 … 経済的事実の発生を基準とした会計処理の方法で、現金支出を伴わないコストを把握できる。

- ① 平成24年度は行政サービスコスト502億円に対し、収入は525億円で、**収支差額は23億円の黒字**となりました。
- ② 市税の継続的な増加が見込まれない中で、扶助費など経常的な支出が増えています。また、資産の増加に連動して、維持修繕費用、減価償却費も増えています。今期も**行政コスト計算書収支差額は黒字を維持**しましたが、**前年度に比べ13億円の減額**となりました。健全な財政を維持していくためには、より一層効率的・効果的な財政運営を行っていく必要があります。

(単位：億円、市民1人あたり：万円)

行政コスト計算書	H20	H21	H22	H23	H24	過去5年平均	市民1人あたり
収入	509	501	530	533	525	520	38
うち市税	362	364	365	372	369	366	26
支出	454	473	※491	497	502	483	36
収支差額	55	28	39	36	23	37	2

※平成22年度は、減価償却方法を変更したことによる追加償却費40億円を支出額から除いています。

II-③ キャッシュ・フロー計算書（一般会計）

現金収支の状況を示すもので一般会計の歳入歳出決算の差引残額と一致します。収支を行政サービス、資産形成、財務の3つの活動に分けることで、資金配分のバランスを把握できます。

- ① 本市は、これまで健全な財政運営を維持しながら、事務事業の実施、都市基盤の維持、公共施設の充実を進めてきました。キャッシュ・フロー計算書では、行政サービス収支と資産形成収支の合計である**フリー・キャッシュ・フローがプラス**となっています。これは、行政サービス収支の黒字の範囲内で資産形成を進めたことを示しています。平成24年度は、フリー・キャッシュ・フローが昨年度に比べ7億円ほど減少したものの34億円と引き続き大きく黒字となりました。
- ② 計画的な市債の返済を進めるとともに、今後の公共施設や学校施設等の更新に備えて基金の積立を行った結果、**財務活動収支は昨年度と同規模の35億円の赤字**となりました。今後市税の増加が見込めない中、扶助費などの経常的な支出がさらに増えることが予想されます。フリー・キャッシュ・フローが黒字の時に、財務活動支出を積極的に行っていく必要があります。

(単位：億円、市民1人あたり：万円)

キャッシュ・フロー計算書	H20	H21	H22	H23	H24	過去5年平均	市民1人あたり
収支差額 (A+B+C)	22	△19	△6	5	△1	△1	0
行政サービス収支 (A)	78	40	54	69	51	58	4
資産形成収支 (B)	△47	△42	△54	△28	△17	△38	△1
財務活動収支 (C)	△9	△17	△6	△36	△35	△21	△3
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	31	△2	0	41	34	20	3
歳計現金 (形式収支)	51	33	27	31	30	34	2

※フリー・キャッシュ・フローとは、行政サービスに要した現金収支と資産形成（建物や道路の建設費）に要した現金収支を合計したもので、黒字の場合、この現金を財務活動（借入金の返済・基金の積立）に充当しています。

Ⅲ 連結財務諸表

一般会計、特別会計、公営企業会計及び市が出資・出えんなどを行い、密接な関連を有する財政援助出資団体（15 団体）が連結対象です。

- ① 総資産 3,488 億円に対して、負債を除いた正味財産は 2,899 億円で、**一般会計と同様に高い正味財産比率を維持**しています。
- ② 総負債 589 億円のうち借入金の主なものは、一般会計 204 億円、土地開発公社 105 億円、下水道事業会計 49 億円などです。平成 24 年度は、一般会計が 18 億円減少したものの、下水道事業会計で 6 億円、(財) 武蔵野市開発公社で 9 億円、武蔵野市土地開発公社で 12 億円などの増加があり、連結会計全体で 14 億円増加しました。
- ③ 行政コスト計算書収支は、行政サービスの支出が 806 億円に対し、収入は 816 億円で収支差額 **10 億円の黒字**となりました。前年度と比較すると、支出が保険給付費や減価償却費の増などにより 18 億円増加したのに対し、収入は国・都支出金や事業収入の微増による 7 億円の増加に留まり収支差額は 11 億円の減少となりました。
- ④ キャッシュ・フロー計算書収支は、資産形成収支の赤字が減り（小中学校空気調和設備設置工事の終了等）、**全体の収支は 2 億円**となりました。
- ⑤ 一般会計と特別会計の繰出金及び繰入金、市から財政援助出資団体への補助金・事業委託料等の支出は、武蔵野市の内部取引ですので相殺しています。一般会計から各団体（会計）に対する支出額は、特別会計へ 48 億円、公営企業会計へ 2 億円、財政援助出資団体へ 60 億円、**合計で 110 億円**（前年度同額）となりました。

（単位：億円、市民 1 人あたり：万円）

貸借対照表	H20	H21	H22	H23	H24	前年比増減	市民 1 人あたり
総資産	3,400	3,412	3,408	3,455	3,488	33	250
総負債	645	597	594	594	589	△ 5	42
うち借入金	468	440	450	450	464	14	33
正味財産	2,756	2,815	2,814	2,861	2,899	38	208
正味財産比率 (正味財産 ÷ 総資産)%	81.1	82.5	82.6	82.8	83.1	0.3 ㊦	
行政コスト計算書	H20	H21	H22	H23	H24	過去 5 年平均	市民 1 人あたり
収入	777	766	794	809	816	792	59
支出	711	729	※787	788	806	764	58
収支差額	66	37	7	21	10	28	1
キャッシュ・フロー計算書	H20	H21	H22	H23	H24	過去 5 年平均	市民 1 人あたり
収支差額 (A+B+C)	24	△ 24	△ 5	3	2	1	0
行政サービス収支 (A)	52	52	54	60	46	53	3
資産形成収支 (B)	△ 37	△ 37	△ 49	△ 40	△ 28	△ 38	△ 2
財務活動収支 (C)	10	△ 39	△ 10	△ 17	△ 16	△ 14	△ 1
歳計現金 (形式収支)	95	71	66	69	72	75	5

※平成22年度の行政コスト計算書は、一般会計で減価償却方法を変更したことによる追加償却費40億円を支出額から除いています。